



今回は、多くの学校で人権教育の授業の教材として扱われている「リスペクト・アザーズ」という題で、当時、神奈川県鎌倉市立御成中学校3年の坪井洸さんが、全国中学生人権作文コンテストで、法務大臣賞を受賞した作文を紹介します。

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのカンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイケア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『respect others (リスペクト・アザーズ)』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

カンディエゴは、ロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいも、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人たちがいた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前の状況だったので、自分がまわりの人と違っていることも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクト・アザーズ』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味もはっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのはなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはならなかった。上手くない選手がフライをボロと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクト・アザーズ』と言った。やる気がなくてエラーをするのもっての他であるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きな文化ショックも受けた。一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人よりうまくできて目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、その川がわからず今までどおり、自分が上手く出来たことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、なんとも悲しい気持ちになった。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってうやむやにしていることにも驚いた。僕がよくわからない世界だった。僕が叩き込まれていた『リスペクト・アザーズ』の世界はここにはなかった。僕の限られた経験の話になるが、アメリカ(カンディエゴ)ではなぜそんなに『リスペクト・アザーズ』を子どもの頃から叩きこんでいるのだろうか。それは、アメリカ社会がつい最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。居住地区を制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所をわけていたり、差別することが当たり前で、一般人が差別したりされたりすることに何の疑問を持たずに時代が流れていた過去がある。そんな過ちをこれから先に繰り返さないように、子ども達に叩き込んだり、またそうすることによって、大人も自分自身を戒めているのかもしれない。僕は日本でももっと、『リスペクト・アザーズ』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。

人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

みなさん、呂布カルマさんが出演するACジャパンのCMをご存じですか。「月たたくより、たたえ合おう月」というフレーズで、他者を尊重し、認め合う大切さやそこから生まれる交流を伝えるあのCMです。見方・考え方を少しだけ変えて伝えるだけで、その想いが180度異なり、受け止め方も変わるとともになぜか心地よくなるフレーズになると感じました。否定形の伝え方は、脳科学的に人間の脳は、能動的に動かず、肯定形は脳を能動的にするとはいいます。

みなさんは「リスペクト・アザーズ」できていますか？私たちも日常生活を振り返って、いまいちど、考えてみたいものですね。

双葉学園 寝屋川市立第二中学校
校長 清水 通生

6/7(水)~9(金) 3年生 修学旅行【北陸方面 選択体験・金沢市内散策・利賀村&立山町民泊】

初日はアスレチックやジップライン、オルゴール装飾、ハーバリウム体験など選択体験を行い、2日目は金沢市内を班で散策しました。2日目の午後からの民泊体験では、薪割りや五平餅作り、夕食の準備に捕まえたイワナの串焼きなど、大自然や農家の方々との時間を満喫しました。



6/9(金) 2年生 校外学習【三幸学園・東洋学園】

午前は7分野（医療事務/介護・Webデザイン・スポーツ・調理/製菓・美容・ブライダル・保育）、午後は4分野（ファッション・着物・福祉・情報）にわかれ、体験学習を行いました。各専門の講師による講話を受講し、実習を通して、働くことの厳しさや楽しさを肌で感じ、学び多き一日となりました。



6/9(金) 1年生 校外学習【六甲山アスレチックパーク GREENIA】

現地は標高850mに位置するため寝屋川市より気温が低く、やや肌寒い気候でしたが、73期生の生徒は元気いっぱいに取り組んでいました。班別行動で陸上と水上のアスレチックに挑戦し、班のメンバーとコミュニケーションを取りながら、とても楽しそうに活動していました。



6月号の学校だよりを受けて、給食配膳員さんよりメッセージ

感謝していただいていることを聞いて本当に嬉しかったです。みなさんに喜んでいただいているなら十分です。私たちもやりがいが出てきます。これからもみなさんが慣れ親しんで美味しく食べてもらえるように頑張っていきます。

7月の行事予定

- 1日(土) 土曜参観
- 3日(月) 代休
- 11日(火) 三者懇談 (~7/12,13,14)
- 19日(水) 給食終了
- 20日(木) 終業式

8月の行事予定

- 22日(火) 始業式
- 28日(月) 給食開始
- 3年 進路説明会
- 2年 林間説明会
- 1年 林間説明会

